

研修名 プレゼン発表会

平成31年1月28日(月) 13:30~16:30

プレゼン交流会

指導助言 桜花学園大学 小嶋 玲子 氏



1 プレゼンテーション

1) 木津川市 愛光こども園

「異年齢児交流「ひろってジャンプ」～大好きな玉入れを通して～」

・概要

異年齢交流ということで、縦割りの2チームに分かれての玉入れ。「なぜ負けるのか？」年長児が中心になって作戦会議を進めていた。玉入れでも、手作りの玉を使用し、数だけでなく、重さでも競え、数や重さ比較に興味関心を深めることが出来た。

・助言

視点を持った先生の考えの柔軟さが見られた。遊びの中からの学び、気づきが次の遊びへとつながっていた。何をねらって、子どもがどんな発言をしているか、どんな意図を持って支援、配慮をしているかを可視化することが大切。

2) 木津川市 木津さくらの森こども園

「共に考え、深め続ける保育者のかかわり～トマト大作戦～」

・概要

トマト栽培をしていたが何者かに食べられてしまったことから、そのトマトを守るために地域の方々とのかかわり、家庭の協力によって子ども達が作戦を実行していく中で、試行錯誤しながら友達と協力し、目を輝かせて取り組むことができていた。遊び込む経験が重要であることを感じた。

・助言

「効果より試すことを楽しんでいた」という保育者の言葉が良かった。子どもも保育者も楽しくなるような仕掛けで一つの活動を継続すること。相互性がある保育、相互理解という点から、どう保育が変わっていったか。保育者がどう成長したかなど、保育者自身の思いの変化がもっと前面に出てもいい。

3) 木津川市 なごみこども園

「なんで？なんで？の2歳児～生き物とのかかわり～」

・概要

4歳児クラスより、蝶の幼虫とおたまじゃくしをもらい、観察を始める。その中でたくさんの疑問や気づきが出てくる。

・助言

何かを教えるのではなく、一緒に生きて、心を動かして楽しんでどう共有していたか・・・保育者、子どもの活動が見えるような実践。→自分だったらどうするかな？と思えるような、考えられるようなものが発表になる。

4) 宇治市 ひいらぎこども園

「2歳児に広がった流しそうめんプロジェクト」

・概要

年長組の流しそうめんを見たあと、同じようにそうめんを食べる遊びが始まる。保

育室に一本の紙の筒を置いてみると、おもちゃを入れると落ちることに気がつく。角度を調節したり、流れてきたものを受けを考えることを考えたりして遊びが広がる。

・助言

日頃からちゃんと環境が整えられているか。

一人の子どもの遊びが、他の子どもの人的環境になっていた。

5) 長岡京市 今里こども園

「はな&ゆめぐみ ごっこあそび～おかいものごっこ～」

・概要

保育者の言葉かけ、環境作りなど具体的にどう関わっていけばよいのか。

・助言

発達の過程、段階を一人ひとりしっかりとおさえることが大切。

発表の最後には、自分で図式化し、まとめること。

6) 精華町 せいかだい保育所 すもも園

「3.4.5歳児の保育～遊びと生活から～」

保育に火を取り入れる～遊びの中の学び～」

・概要

この保育施設では10年前から火を使った活動を行っている。その環境設定をするが全ての子どもが興味をもつわけではない。いかにその設定された環境が魅力的であるか、入りたいと思った時に入ることができる環境を整えておくかということ。また、安心感という基盤を基に豊かな経験があると考え活動していくにはどのように設定し関わりを深めるかを考える。

・助言

子ども主体の活動を念頭に置いて。環境→楽しそう!!魅力的なしかけが必要
数人での体験がクラス体験へとつながっていく。

ちゃんと見てくれているという安心感、一人ひとりを大事にしている、愛情がある→探索活動へつながる。

2. 感想

今回6園のプレゼン発表を見せていただきましたが、どの園も素晴らしい発表だったと思います。プレゼンする機会というものはなく、その発表の仕方について、聞いてくださっている方々に何を伝えたいのか、保育者の思いをしっかりと伝えること、自分だったらどうするか・・・を考えられるような内容にすることなどを学ぶことができました。実践を書くことで、書いている自分にも気づきがあると思うので発表するしないに関わらず、園内でも実践を書く機会を作り、職員で話を共有していくことも必要だと感じました。

また、すぐに保育に生かせるような実践内容もあり、とても参考になりました。環境の必要性はもちろんのこと、まず保育者も子ども達と一緒に楽しむこと、安心安全をしっかりと与えることを大切に子ども達と関わっていきたいと感じました。

(記録 与謝野町立桑飼保育園 前田 裕美)